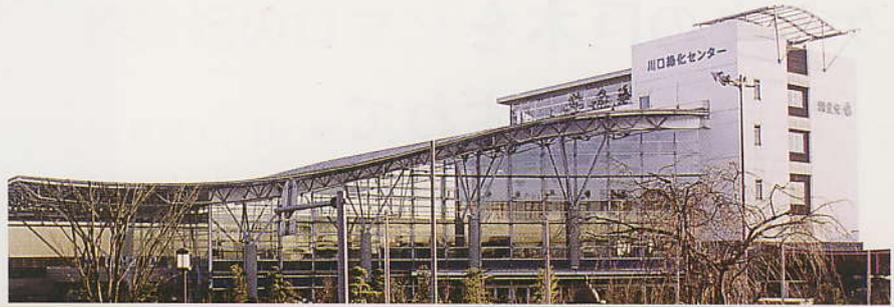


樹里安だより

2000年
3月
Vol. 7



..... 安行八景 (その二)

密蔵院 《川口市大字安行原2008》

真言宗智山派寺院。同院所蔵の文書によると、文明元年（1469）永海法印によって開山。海寿山満福寺密蔵院と名付けた。

本尊の地藏菩薩は平将門がその守護仏を残し置いたとも言い伝えられる。

境内にはたくさんの石灯籠と植木の緑が美しい調和を見せ、春は門前の桜並木が彩りを添える

ケヤキの巨木を たずねて

木村 四郎

ケヤキは、ニレ科ケヤキ属で材が硬く狂いが少ない優秀な材質で、用途の広い有用樹木である。4月から5月にかけて、葉が出揃ったところに控え目に小さな花をつける。

だいたい^{ほうきじょう}が箒状に枝を広げて^{そび}聳えるケヤキ特有の美しい姿をもっている。高さが30mにもなる落葉高木である。

ここ朝日神社境内のケヤキも幹周り4.3m、高さ34mの偉容を誇っている。川口市内でも飛び抜けて大きいケヤキである。

このあたり武蔵野台地に最も似合うのがケヤキではなからうか。夏の房々とした広がりもいいが、今頃の葉を落としたすっきりとしたシルエットは、私の一番好きな樹の一つである。

なだらかな起伏の森の上に突き出た細かい枝を伸ばした姿はいかにも武蔵野の冬の風物詩^{ふうぶつし}である。

万葉集巻11に「天飛ぶや軽の杜の斎槻幾世まであらむこもり妻ぞも」とあるように、昔は「強い木」即ち槻^{つき}と言ったようである。しかし「つき」はケヤキの一種ともいわれていて、その辺はさだかではない。

勝れている、きわだっている、という意味の「けやしき」から「けやき」になったとも言われている。

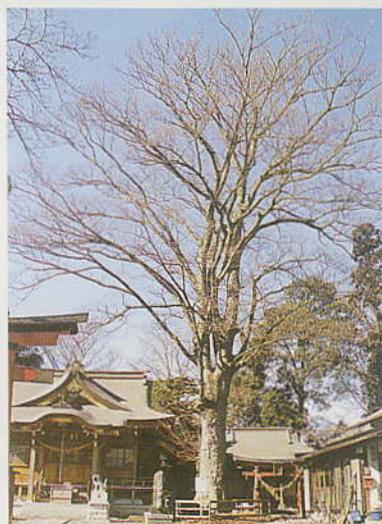
「木曾呂南」というバス停から左の方へ折れ坂を登り下りするうちに、はるかに小高い森かげに、ひときは抜きんでた姿が望見できる。

多分あれに違いないと、細い道をのぼっていくと、三角に鳥居が見える。朝日神社の境内である。社殿は現在建て替え中で、コンクリートの基礎が出来ている。来年の600年祭（註：平成7年）に向けての新築であるが、（註：既に竣工済み）ももとは氷川神社と言っていたそうで、大宮の氷川神社を1395年というから、足利義満のころに勧請^{かんすう}したもので、その後江戸末期に一度立て替えられている。

90年ほど前にこのあたりの木曾呂南、木曾呂北、道合など6地区が合併した折り、朝日の昇る如くという願いをこめて朝日神社と改名したものだそうである。

そして、朝の字を分解すると十月十日になるところから10月10日を例年祭と決めたというそんな昔の話を、神社の高窪^{たかくぼ}さんから聞きながら亭々と枝を張っているお目当てのケヤキに直面する。

近づいて見るほどに圧倒的な重量感をもって迫って



木曾呂193 朝日神社境内 指定番号9

くる。見上げれば頭上はらかな天空に広がる大幹、大枝、細枝が青空の中に風を受けてゆらいている。

“なるほど高い。立派である。”この樹上部を支える根張りがまた素晴らしい。

力強い根こぶなどから、見えない地下部もまた素晴らしい張り方だろうと想像できる。

恐らく樹齢400年は悠に越えていると思われる。神社草創のころからあったとすれば600年、しかし、現在建築中の新神社の設計士さんは、約430年だろうという。その根拠は、1年1cmとして幹周り430cmだから樹齢は430年であるという。ほぼ近いのではないかと思われる。

はるかなる齢を積み、世の中の様々な出来事を見てきたであろうこのケヤキに畏怖の念と共に懐かしい土の臭いを覚えるのは、私ひとりであろうか。両手で触ってみる。

表面は冬の冷気にひやさされているが、なんとはなしに内部のぬくもりが伝わってくるような気がする。

現在も太っているとみえて盛んに皮がむけている。この皮がはじけるようにむけている間は木が太っている証拠だという。少し前までは、西川口駅ホームからこのケヤキがみえたのだという。直線で、4.5kmだが、今はビルなどで見えなくなったらしい。

改めて見上げるこの巨人に、いつまでも胸をはって生きて欲しいと思うのであった。

ケヤキは黙して語らないが、じっと対面していると過ぎし往時の様々な事件、できごと、照りが続いたとか、大風で倒されそうになったこともあったとか、途中の折れた枝は明治中ごろの大雪に耐えきれず落下したとか、そんな昔話が聞こえてくるようである。

簫条^{しょうじょう}として風^{かぜ}互^{あひ}り、颯々^{さつさつ}として條^{じょう}を鳴らすこの大樹にも、夕方の寒気が満ちてきた。冬のはやい陽がすでに裏の竹やぶの向こうに落ちていく。

のびのびと雲つかみいる大樹かな

《文・平成6年2月1日》



楊貴妃のロマン

園芸店を訪れると、春先は品数も豊富で、目に映るものあれもこれもと欲しくなるものです。また、そのような事をこのうえない楽しみにしている訳です。

園芸の楽しみ方の一つに、同じ名前の植物を集めていく方法があります。

江戸時代、町人文化華やかかりし頃、盛んに品種改良された古典園芸植物と呼ばれる日本独自のしかも世界に誇れる植物群があります。

ばたん しゃくやく つばき さざんか もみじ おもと まつばらん いわひば ふくじゅそう とうようらん さくらそう まんりょう やぶこうじ
牡丹、芍薬、椿、山茶花、紅葉、万年青、松葉蘭、卷柏、福寿草、東洋蘭、桜草、万両、薮柑子、
ざくろ さくら なんてん あさがお うめ
石榴、桜、南天、朝顔、梅、……………等々。

これら植物の園芸品種の命名は、新しく作出された園芸種の姿、花容等のイメージや作者の思い入れを膨らませて、そこに自然の印象・感動・畏怖の念等を重ね合わせて付けられたのであろう。さらに歌舞伎や能、謡曲、新内等のタイトルが付けられていることもあります。

例えば《春の宵》《薫る花風》《仰天》《胡蝶の舞》《古城の月》《不知火》《衣通姫》
はごろも あげがらす たおやめ
《羽衣》《明烏》《手弱女》……………等。

そんな中で人名がそのまま被せられた園芸種があります。極めて珍しい事です。

歴史上の人物や物語に登場する人物です。

例えば《楊貴妃》《紫式部》《人麿》《牛若丸》《光源氏》……………等。

楊貴妃の名を付けたものも多い。

日本人の憧れだろうか。ロマンを感じていたのだろうか。何かそこに夢を江戸時代の数奇者が、珍しくも人名を付けたのは何故であろうか。

私達の想像をかきたてる一事ではあります。



サクラ：楊貴妃（オオシマザクラ系）
淡紅色・八重咲・弁数18～20
枚・花径4～5cm

ウメ：楊貴妃
豊後性・遅咲き・淡紅色・八
重咲・大輪・花弁は波うつ

シャクヤク：楊貴妃
黄色・八重咲

イワヒバ：楊貴妃
葉は垂れて丸みを帯びる・芽
先は白のぼかし、金と紅の散
斑が美しいイワヒバの代表的
な園芸品種

その他にも、サクラソウ、セッコク、フウラン、サツキ、……………等に見られます。

買い求め、丹精こめて育てた植物。こんなに可愛いものはない。
今度は何とか増やしてみたい。

夢が膨らむ。

種を採って蒔く。植物体の一部を切って挿す・接ぐ。取り木をする。
植物の繁殖法には、色々な方法があります。

- 種子繁殖** …… 種を蒔いて発芽させ増やしていく方法。
特に園芸種は、親と異なった花が期待できます。
- 栄養繁殖** …… 親と同じ物が得られます。
挿し木、接木、取り木、株分け法があります。

挿し木の簡単な方法を紹介しましょう。

- ◆枝の先端部から挿し穂を調整するもの —— 天ざし、頂芽ざし、心ざし
- ◆先端より下の頂芽のない部分を調整して用いる —— 管ざし
- ◆芽ざし、緑枝ざしの場合 —— 天ざしが多い
- ◆挿し木時期

落葉樹	2～3月(休眠枝)、5～6月(緑枝・ミスト)
	主に萌芽前の落葉樹の休眠枝ざしが中心。
常緑広葉樹	6～7月(露地・ミスト)
	梅雨ざしが中心。
	この時期は新梢の伸張が一時、停止するところで、また戸外の温湿度条件が、さし木に適した時期である。
常緑針葉樹	3～4月、9～10月(暖地)

◆親木から切り離されたさし穂は、急に根からの養水分の補給が断たれるわけであるからさし穂自身にとって極めて大きな変化といえる。

◆挿し木の芽と葉の役割。

休眠枝ざし……………芽の存在は発根に対して大きく影響する。初期の発根は芽側の基部に発生がみられ、芽を取ると全く発根しないか、わずかな発根しかなくなる。また、芽が活動しはじめるころから発根がみられるようになる。

緑枝ざし……………葉の存在は発根に対して大きく影響する。休眠ざしと違って、芽を除いてもあまり発芽に影響がない。しかし、葉を落とすと休眠枝ざしにおける芽の切除と同様、極めて発根が悪くなる。

◆挿し木用土

さし床の用土は多くの種類が使われている。

- ①赤土 ②川砂 ③鹿沼土 ④ビート ⑤パーライト ⑥バーミキュライト ⑦ミズゴケ 等

○ 挿し木後、もう根が出ているのではないかと穂をさわって、確かめたくなるものです。好奇心旺盛の人は、穂を抜いて見る人もある。決してなさらぬように。

常緑広葉樹の密閉ざし

梅雨が明けて地面の温度も上昇する7月は、ツバキ、サザンカ、キンモクセイ、ヒイラギ、ジンチョウゲ等、常緑広葉樹の挿し木の適期です。

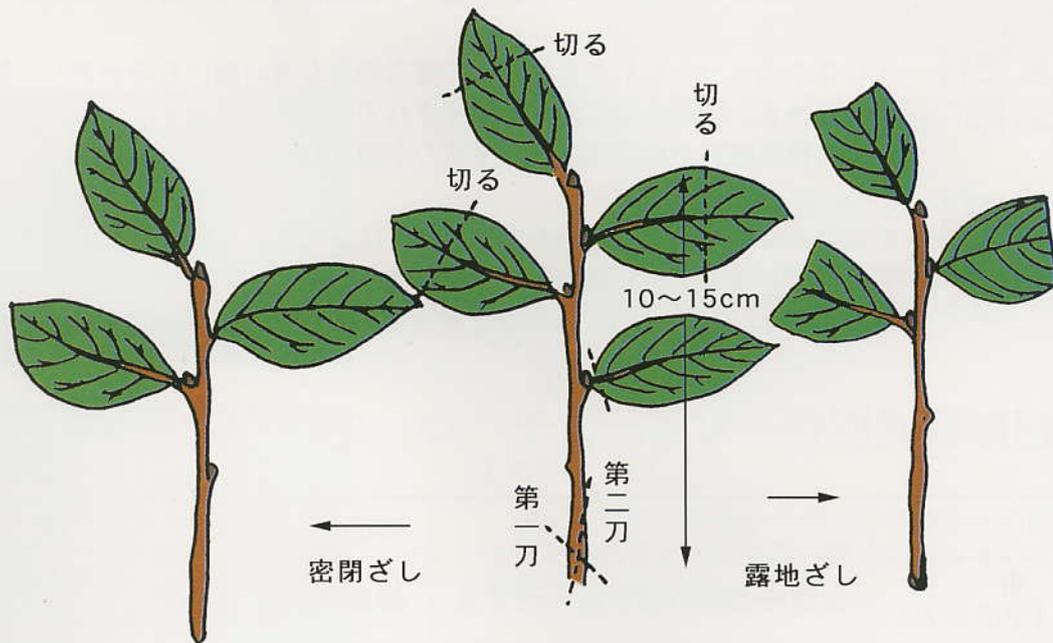
挿し穂は、今年伸びた枝で、よく日に当たり、充実した枝を葉先から10~15cm位のところで切り落とします。

次に、挿し穂の調整で、枝の下半分の葉を落としたあと、基部をくさび形にナイフで削り直し、2~3時間ほど水揚げを行います。

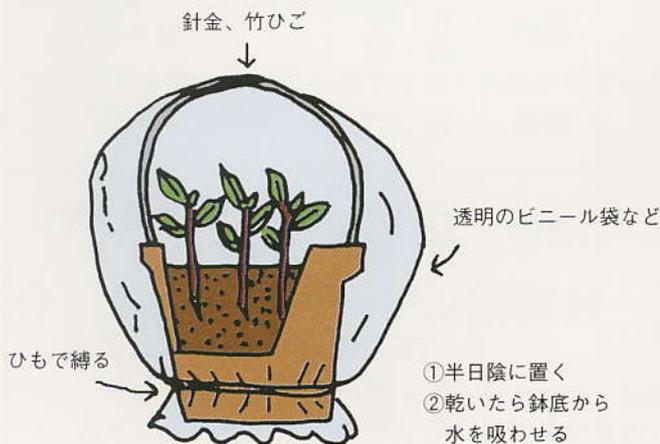
さし床は、赤玉土か鹿沼土、砂など小粒の物を植木鉢やプランターに入れ、さし床にします。ここにさし穂を挿し、ぐらつかないように基をよく押さえます。

全体をビニールで包み、通気穴をあけておきます。3週間位は半日陰に置いて徐々に日を当て管理します。灌水は鉢底から浸透させます。

[さし穂の調整]



[簡単なさし床]



- ★一般に草本類のさし穂は、7~8cmで、下部3cm~4cmを床土にさします。木本類のさし穂は、長さ10~15cmで、4~5cmを床土にさします。
- ★さし木容器は、さし穂の土に挿す長さプラス2~3cmの深さが必要です。植木鉢や育苗箱、プラスチックのパック容器などを使います。
- ★さし穂の間隔は、隣り合った穂の葉が、触れるか、わずかに重なる程度です。



植物・園芸用語解説 シリーズ7

お 礼 肥

開花後または果実の収穫後に消耗した樹勢を回復させるために与える肥料。翌年の花や実のために行う追肥である。

も と 元 肥

植物を植える前に、植栽地に地力保持や肥料分供給のために施す肥料。

えきたいひりょう 液体肥料

液肥ともいう。無機塩類を水に溶かした肥料で、即効性なので追肥として使うことが多い

こけいひりょう 固形肥料

結晶、粉末、粒状をした固体の肥料のことで、液肥に対していう。

かんこうせいひりょう 緩効性肥料

化学肥料のうち、効果がゆっくりと効いてくる肥料をいう。一般に市販されているものでは、尿素とアルデヒド類の縮合物が多く、徐々に水に溶けるので濃度障害を起こさず、生育期間の長い植物を栽培する際に適している。

むきしつひりょう 無機質肥料

主に化学的につくられたもので、3要素の含有量の高いものが多く、施すとすぐに効き始める。肥料としての効果はすぐれているが、多用すると障害がでることもある。有機質肥料や堆肥類と併用するのが望ましい。

ゆうきしつひりょう 有機質肥料

動植物が原料の肥料。効果をあらわすには、発酵、分解する必要がある、施してから効き始めるまでに日数がかかるが、効きめは長時間持続する。元肥に適している。
あぶらかす こつぷん けいふん ぎよかす こめぬか
油粕、骨粉、鶏糞、魚粕、米糠などがある。有機質なので土質をよくする効果もある。

種 類	特 徴	効能	施肥法	適 用	
有機質肥料	油 粕 (主成分N)	大豆や菜種の油を絞ったカス。	緩効	元 肥 追 肥	元肥は植付け2週間前に。
	骨 粉 (主成分P)	魚や獣の骨を蒸して粉碎。	緩効	元 肥 追 肥	石灰と混ぜると効果が減る。
	鶏 糞 (主成分N)	乾燥させた鶏糞。 効きめが強いので注意。	緩効	元 肥 追 肥	
	牛 糞 (主成分N)	乾燥させ粉碎したもの。 発酵させて使用。	緩効	元 肥	
無機質肥料	化成肥料 (複合肥料) (配合肥料)	3要素が含まれる。 N:P:K=8・8・8のように含有量が表示されている。	速効	元 肥 追 肥	使用上の注意や規定量を守る。
	単 肥	3要素のうち1種類だけ含まれる。 硫酸(N) 過リン酸石灰(P) 硫酸カリ(K)	速効	元 肥 追 肥	



川口緑化センターの主なイベント報告

◇ 病害虫防除講習会

12月2日(木)

花き植物の主な病害虫の防除方法と最近発見した病害虫の対策について、緑化関係者を対象に、技術の向上と知識の普及のために開催しました。



◇ 花と緑の写真展

1月22日(土)～30日(日)

花と緑をテーマにした写真を展示し、来場者に緑の素晴らしさ、大切さの啓発を図りました。



◇ 第8回緑の街ふれあい講演会

1月23日(日)

タレントの岸ユキ氏を講師に招き「緑豊かな自然、田舎暮らしと私の人生」という演題で講演していただいた。農業生産者と地域住民の交流が深まり、都市農業と自然環境についての見直しが図られた。



◇ チェーンソー特別教育講習会

2月5日(土)

チェーンソー取扱いの機会の多い造園関係者の労働安全教育と労働災害の防止を図るための教育講習会を開催しました。

◇ 接木技術講習会

2月9日(水)

接木繁殖の技術を継承するために、実習を交えた講習会を開催しました。



◇ コンテナガーデン講習会

2月12日(土)～13日(日)

コンテナガーデンの基本をわかりやすく解説し、寄せ植え技術の実技指導を行い、普及を目的に講習会を開催しました。



緑花アラカルト

ご存じですか 川口の名産

クワイ [慈姑]



オモダカの塊茎を食用するために大きく改良したのがクワイです。
水田に栽培する中国原産のオモダカ科の多年草で、古く我が国に渡来した。
塊茎から勢いよく伸びる大きな頂芽に縁起をかつぎ、立派な芽が出るようにと、正月のお節料理や祝い事の料理に使われます。
中国には次のような言い伝えがあります。
「クワイの子（塊茎）は一年に12子を生じる。年が閏年だと13子を生じる。ちょうど慈母が子供に乳をやって育てているようなものである。即ち、クワイは慈しむ姑、あるいは慈愛溢るる姑というので慈姑の字を当てた」
なるほど、在来種の根茎は青くて、剃りたての子供の頭に似ているし12子か13子とかは多産を表徴することとすれば、興味深い話です。

料理法

ご祝儀の折詰などに酒と砂糖で甘く煮て用います。
また、クワイを裏ごししてきんとんを作る。
関西では、芽のついたクワイを雑煮の中に入れて食べるといい、縁起ものとして需要があります。
クワイは冬から春の始めに採って食用にしますが、生のとき黄白で、煮ると黄色になります。更にきれいな黄色に色付けするには、クチナシの実を使います。甘く煮て正月のお節料理、雛の日の重詰などに用います。
また、薄く切って揚げ物にします。若い芽もゆでて食用にします。

安行くわい出荷組合は、毎年京浜市場や遠隔地の市場にくわいを生産出荷しています。



発行日

平成12年3月31日

発行

財団法人 川口緑化センター

〒334-0058 川口市安行領家844-2

TEL.048-296-4021

道の駅「川口・あんぎょう」

ホームページ <http://www.sainet.or.jp/~jurian>